

## 台湾日本語教育學會の紹介（2024年1月4日）

本学会は1993年1月17日に「中華民國日本語教育學會」という名で設立され、初代理事長は蔡茂豊であった。設立以来15回の理事監事の選挙を経て、現在の第16代理事長は曾秋桂で、他に常務理事4名、理事10名、常務監事1名、監事4名を置いている。本学会は会務の推進及び学术交流のために、1993年6月19日に初の日本語教育国際学術シンポジウムを開催するとともに、1994年には紀要「台湾日本語教育論文集」を創刊した。1999年以降は、毎年の年次大会の際に国際学術会議を開催している。2000年に「台湾日本語教育學會」に改名し、2009年には学報が「台湾日本語教育學報」と改題された。2002年に「日本語教育グローバル・ネットワーク」に加入し、2010年に日本語教育国際研究大会を主催した。2011年に「JFにほんごネットワーク」（通称：さくらネットワーク）へと加入した。2016年には日本語教育への寄与が高く評価され、日本国外務大臣表彰を受けた。

## 台湾日本語教育學會の沿革(敬称略)

1993年	1月17日、中華民國日本語教育學會が設立される。初代理事長に蔡茂豊が就任。
	3月21日、台中商業專科学校で初めての中部日本語教育研討会を開催。
	4月18日、高雄三信高商で初めての南部日本語教育研討会を開催。
	6月19日、東呉大学で学会初の日本語教育国際学術シンポジウムを開催。
1994年	紀要『台湾日本語教育論文集』創刊。
	「台湾地區日本語教師動力調査」を実施。
	『台湾地區日本語教師動力調査』解析」を発表。
1995年	第二代理事長に林丕雄が就任。
	国際会議「国際化時代の日本語教育」を開催。
	『台湾日本語教育論文集』休刊。
1997年	第三代理事長に林水福が就任。
	国際会議「日本語文学教育」を開催。
1999年	国際会議「新世紀の日本総合研究」を開催。
	第四代理事長に何瑞藤が就任。
	『台湾日本語教育論文集』復刊。
	国際会議「卓越した日本研究を求めて」を開催。
2000年	学会名を「台湾日本語教育學會」に改名。
	国際会議「卓越した日本研究を求めて」を開催。
2001年	第五代理事長に陳明姿が就任。
	国際会議「二十一世紀の日本研究」を開催。
2002年	「日本語教育グローバル・ネットワーク」に加入。
	国際会議「日本研究」を開催。

2003 年	第六代理事長に傅琪貽が就任。
	国際会議「日本語教育と日本研究」を開催。
2004 年	国際会議「日本語教育と日本文化研究」を開催。
2005 年	第七代理事長に于乃明が就任。
	国際会議「日本語教育と日本文化研究」を開催。
	初代理事長を務めた蔡茂豊が、日本政府旭日中綬章を受章。
2006 年	国際会議「日本語教育と日本文化研究」を開催。
2007 年	第八代理事長に林長河が就任。
	台湾日本語文學會と国際会議「日本語文と日本語教育」を共催。
2008 年	学会のホームページを公開。
	学会の公式ロゴマークを公開。
	国際会議「台湾の日本語教育研究と実践の現況と展望」を開催。
2009 年	第九代理事長に邱若山が就任。
	紀要『台湾日本語教育論文集』を『台湾日語教育學報』に改題。
	国際会議「台湾日本語教育のジャンルのひろがり求めて」を開催。
2010 年	台湾日本語文學會、政治大學と日本語教育国際研究大会を共催。
	『台湾日語教育學報』第 14 号より、冊子版と電子版を年に 2 回同時発行。
	第四代理事長を務めた何瑞藤が、日本政府旭日中綬章を受章。
	国際会議「台湾・日本・韓国における日本語教育の現状と発展」を開催。
2011 年	第十代理事長に邱若山が就任。
	「JF にほんごネットワーク」（通称:さくらネットワーク）に加入。
	国際会議「台湾の日本語教育における各領域の研究課題」を開催。
2012 年	3 月 31 日、靜宜大学で日本語教育研究発表会を開催。
	国際会議「台湾の日本語教育における各領域の新しい課題とその可能性」を開催。
	『台湾日語教育學報』第 19 号より、電子版のみを発行。
2013 年	第十一代理事長に賴錦雀が就任。
	3 月 23 日、東呉大学で日本語教育研究発表会を開催。
	9 月 28 日、東海大学で日本語教育研究発表会を開催。
	国際会議「台湾における日本語教育の再発見」を開催。
2014 年	5 月 31 日、靜宜大学で日本語教育研究発表会を開催。
	11 月 9 日、文藻外語大学で日本語教育研究発表会及び座談会を開催。
	国際会議「台湾日本語教育におけるイノベーションの探求」を開催。
2015 年	第十二代理事長に賴錦雀が就任。
	10 月 3 日、東海大学で日本語教育研究発表会を開催。

	第二代理事長を務めた何瑞藤が、日本旭日中綬章を受章。
	国際会議「学習者主体の日本語教育の再考」を開催。
2016年	10月22日、台中科技大学で日本語教育研究発表会を開催。
	学会が日本政府から表彰を受ける。
	国際会議「日本語教育における言語と文化の融合」を開催。
2017年	第十三代理事長に曾秋桂が就任。
	国際会議「日本語教育のグローバル化」を開催。
2018年	5月10日、淡江大学で日文翻訳頂上論壇を開催。
	国際会議「アクティブトランジションのための日本語教育を目指して」を開催。
2019年	第十四代理事長に曾秋桂が就任。
	『台湾日語教育學報』が国家図書館言語部門「2018年5年影響係数」で第1位を獲得。
	国際会議「AIと日本語教育との対話」を開催。
2020年	国際会議「クリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育」を開催。
2021年	第十五代理事長に楊錦昌が就任。
	『台湾日語教育學報』が「2020年台湾人文及び社会科学紀要評価」でコア・ジャーナル(THCI)に入選。
	国際会議「with コロナ時代の日本語教育を目指して」を開催。
2022年	「VRを用いた日本語教育」ワークショップを開催。
	『台湾日語教育學報』が国家図書館言語部門「2018年5年影響係数」と「長期被引用総数」で第2位を獲得。
	国際会議「世界に繋がるための日本語・日本語教育」を開催。
2023年	第十六代理事長に曾秋桂が就任。
	東呉大学「蔡茂豊教授と台湾の日本語教育」を開催。
	淡江大学村上春樹研究センターと国際会議「DX時代における日本語教育の挑戦と課題」を共催。
2024年	『台湾日語教育學報』が「2023年台湾人文及び社会科学紀要評価」でコア・ジャーナル(THCI)に入選。

(邱若山・賴錦雀整理)